



# Referee Time

(審判だより49号)

2020.4.24

## 今年度審判講習会の資料及び登録について

審判長 儀間 稔

新型コロナウイルス感染がなかなか収まりません。学校が再開するまでは、各チームの練習もできず、児童生徒のストレスも気になるところです。しかし、子ども達を含め皆さんの命や健康を守ることが一番なので、ここは我慢し、早く新型コロナウイルス感染が終息に向かい、日常に戻ることを願っています。

緊急事態宣言により、会議や外出等も自粛されています。そのため4月に予定していた今年度の審判講習会も開催することができず、中止も含めて検討しています。そこで、今年度の講習会で配布予定でした資料を添付しますので、プリントアウトしてお読みください。パワーポイントの画面の印刷のため、話を聴かないと理解しづらい面もあるかもしれませんが、大会等でお会いした時におたずねください。

### 資料：2020審判員の目標、 競技・審判に関するJHA資料のQRコード 講習会プレゼンシート(主なポイントを下記に示します)

#### ○2020審判員の目標から

(2)「コンタクトプレーを正しく見極める」から

OFとDFの位置関係をしっかり見る！

違反行為の影響をしっかり見る！

} がポイントになります

※ QRコードから You Tube チャンネルを開き、映像を確認して勉強しましょう。

#### ○プレゼンシートから(ポイント)

今年度の研究課題です。ゲームを担当しながら、良いところや改善するところ等を見つけていければと思います。

- ・③→モダンハンドボールの適応に応じてはカテゴリーの実態に応じて検討する。
- ・⑦⑧→選手やコーチとコミュニケーションを行うレフェリーが増えたが、説明の際に判定の根拠が不明確なレフェリーがいる
- ・⑮⑯⑰→ゴールレフェリーは立っている側だけでなく、対角のオフensiveファールも判定する。(対角のチャージング)
- ・⑰⑱→ピボットの攻防は、コートレフェリーとゴールレフェリーが連携して管理する。

★講習会や各大会の抽選会が持てないため、**審判登録の期日を5月末まで**延期します。各カテゴリー担当者から連絡があった際は、御協力をお願いします。

# 【2020 年度 審判員の目標】

(公財) 日本ハンドボール協会 審判委員会  
指導委員会

## 1 『審判員の心得 10箇条』

- |             |            |
|-------------|------------|
| ① リーダーシップ   | ⑥ 身体上の適正   |
| ② 誠実さ       | ⑦ ユーモアのセンス |
| ③ ルールに関する知識 | ⑧ 勇気       |
| ④ 冷静さ       | ⑨ 協調性      |
| ⑤ 正しい判断     | ⑩ 仲間意識     |

## 2 『コンタクトプレーを正しく見極める』

### ハードプレーとラフプレーの見極め（競技規則 8:1 ～ 8:3）

競技規則第8条「相手に対する動作」は攻撃側、防御側の双方に適用する。レフェリーは、身体接触の際、両者の位置関係（先に位置をとっていたのはどちらのプレーヤーなのか）と、違反があった場合は、その違反を受けたプレーヤーへの**影響**を正しく見極めなければならない。

- ① 防御側プレーヤーが、不利な位置（横や後ろからボールを対象とせず）から攻撃側のプレーヤーに接触を試みたならば、競技規則8の2、8の3の判断基準をもとにラフプレーとして判断する。
- ② 競技規則8の3（d）の「違反行為の**影響**」を見極める。違反を受けたプレーヤーがボディーコントロールを失っていないかどうか、すぐに帰陣できないほどの影響があるかを見極める。もしも、違反を受けたプレーヤーがボディーコントロールを失うことなくプレーをしたならば、スピーディーなゲーム展開となるよう、アドバンテージを適用して安易に競技を中断してはならない。また、違反を受けたプレーヤーへの**影響**を見極めて、罰則を適用するかどうかの判断をする。

### < 研究課題 >

- ◆ モダンハンドボールの適用については、各連盟、カテゴリーの実態に応じて検討する。
- ◆ スピーディーなゲーム展開となるよう競技規則を適切に運用し、試合を管理する。
- ◆ コーチ、プレーヤーとのコミュニケーションの取り方。ボディーランゲージ（Body Language）の仕方。判断基準をもとに判定の根拠を適切に口頭で説明できるようにする。
- ◆ ゴールエリアライン際の判定は全てゴールレフェリーが判定する。ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、ゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理する。

## <日本協会 HP 競技・審判本部「競技規則」に関するページ>



<http://www.handball.or.jp/rule/index.html>

競技規則、問題集、最新の通達を掲載中！

※ 「競技規則」「競技・審判本部」の2種類のページがあります

## <競技・審判ハンドブック 2019 - 2020>



[http://www.handball.or.jp/rule/doc/referee\\_handbook2019.pdf](http://www.handball.or.jp/rule/doc/referee_handbook2019.pdf)

レフェリーとして必要なことは何か…

IHFが求めるモダンハンドボールに関する通達…等を  
まとめた一冊です（※2019年8月時点での最新情報）

レフェリーのみならず指導者の方も必見です！

## ★ 競技・審判本部では、公式 YouTube チャンネルを開設しています！



[https://www.youtube.com/channel/UCrA\\_UtDr4\\_sk6Mykclpkt\\_w/videos](https://www.youtube.com/channel/UCrA_UtDr4_sk6Mykclpkt_w/videos)

年度ごとの「審判員の目標」に関する補助資料や、IHFが求めるモダンハンドボール（スピーディーなゲーム展開）に関するレフェリーの判定基準等を、映像で提供しています。

※ 解説等の資料は、日本協会 HP 「競技・審判本部」 ページに掲載しています




①

2020年度 審判員の目標

# 研究課題について


～モダンハンドボールの考え方から～



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

②

## 研究課題




◆ モダンハンドボールの適用については、各連盟、カテゴリーの実態に応じて検討

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

③

## 研究課題



◆ **モダンハンドボールの適用**については、各連盟、カテゴリーの**実態**に応じて検討

↓

- ・ 接触（違反）の**影響**の見極め…**ボディークントロール**
- ・ **得点の後**や**GKスロー**となった際、あるいは**前半終了間際**からの**イエローカード**×
- ・ チームで**3枚のイエローカード** など

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

④

## 研究課題



◆ **スピーディーなゲーム展開**となるよう**競技規則**を適切に運用し、試合を管理する。

↓

- ・ **ゲームの流れ**を優先し、**笛の数**を減らす。ゲームを止めない。
- ・ **怪我をしたプレーヤー**への対応
- ・ **ゴールキーパー不在**の状況での**攻撃**（特に**ターンオーバー時**）
- ・ **モップ**の**タイミング**や**ボール交換** など

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

5

## スピーディーなゲーム展開 負傷したプレーヤーへの対応

負傷したプレーヤーがいる

1st Ref. 『助けが必要ですか』

2nd Player 『はい』  『ゼスチャー15』タイムアウト

『いいえ』  様子を見る

(答えない) でも、立ち上がらない

『ゼスチャー15』タイムアウト

※ 『ゼスチャー15』タイムアウト  Ref. 『助けが必要です』



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



6

## スピーディーなゲーム展開 負傷したプレーヤーへの対応

『ゼスチャー15』タイムアウト



Ref. : **必ず、最大2名のコート  
への入場許可をする**



負傷の原因として、相手に罰則が適用されていなければ  
そのプレーヤーはベンチに下がる(3回の攻撃)



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



7

## 研究課題



◆ コーチ、プレーヤーとのコミュニケーションの取り方

◆ ボディーランゲージ (Body Language) の仕方

判断基準をもとに判定の根拠を、適切に口頭で  
説明できるようにする。

○ コミュニケーションを積極的に行うレフェリーが増えた。

▲ 判定の根拠が不明確。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



8

## 研究課題

◆ **判断基準をもとに判定の根拠を適切に口頭で説明でき  
るようにする。**

▲ 判定の根拠が不明確。

『あそこまでは許容範囲です?』

『あれだけやると激しいです!』



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



9

### ① ボディコントロール

⇒ シュートを打ち切ったかどうか

もしも、ボディコントロールを  
**失わずに**プレーできているならば...

- ◆ ゲームの流れを重視
- ◆ 安易に競技を**中断しない**

7m スローの判定や  
罰則の適用 などにより

モダンハンドボール（ハンドボールの**面白さ**）を表現する



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



10

### ② プレーヤーへの影響

どの罰則を適用するかについての判断基準（8：3）

- 違反行為をしたプレーヤーの **位置**  
・ ・ 相手に対して、正面？側面？後方？
- 違反行為が対象とした **身体の部位**  
・ ・ 胴体？シュートしている腕？脚？頭部？喉？首？
- 違反行為の **激しさの程度**  
・ ・ 接触の強度は？相手の動きの速さは？
- 違反行為の影響**



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



11

### ③ ボールに対するプレー

防御プレーヤーの位置と防御行為

- ◆ ボールを対象としていない
- ◆ 不利な位置から接触を試みた

⇒ **ラフプレー** として判定  
(競技規則 8：2、8：3)

横から

後ろから



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



12

### 研究課題

- ◆ コーチ、プレーヤーとのコミュニケーションの取り方
- ◆ **ボディランゲージ (Body Language)** の仕方



プレーヤー、コーチ、観衆になぜそう判定したのかが  
伝わるように『大きく・はっきりと』判断基準をもとに  
判定の根拠を、適切に説明できるようにする。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



13

## ボディーランゲージ (Body Language)



14

## 研究課題



◆ ゴールエリアライン際の判定は、**全てゴールレフェリーが判定**できるようにする。

ただし、ゴールエリアライン際の**ピボットの攻防**は、**ゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理**をする。



15

## 研究課題



◆ ゴールエリアライン際の判定は、**全てゴールレフェリーが判定**できるようにする。

ゴールエリア付近の

➡ **フリースロー 7mスロー  
オフェンシブファール など**



16

## ゴールエリアライン際の判定 ゴールレフェリーが判定できるようにする



17

### 研究課題



◆ ただし、ゴールエリアライン際の  
ピボットの攻防は、ゴールレフェリーと  
コートレフェリーが連携し、管理をする。



フリースロー      7mスロー  
オフエンシブファール      など

共同作業



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



18

### ゴールエリアライン際    ピボットの攻防 ゴールレフェリーとコートレフェリーが連携



前半25分YC※ 連携 Good sample



OF DF 共にユニフォームを  
纏んでいる

オフエンシブファール  
OFがDFのユニフォームを纏んでいる



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

